



一般社団法人

日本人間関係学会ニュース 第108号 発行日:2025.2.25

News No.108 Japan Association of Human Relations February 25,2025

発行: 日本人間関係学会 広報委員会 E-mail: tanikawa@kusw.ac.jp 関西福祉大学 谷川和昭研究室
事務局: 〒799-2496 愛媛県松山市北条660 聖カタリナ大学人間健康福祉学部 釜野研究室
E-mail: jahrijimukyoku@gmail.com URL: https://jahr.jp/

[内容] ☆巻頭言 ☆全国大会メモリー ☆エクスカッション(語り旅) ☆北から、南から ☆「人間関係士」再始動 ☆事務局だより

《巻頭言》

日本人間関係学会第32回全国大会の開催報告

大会長 加藤 誠之
(高知大学教授)

日本人間関係学会第32回全国大会は2024年9月28日(土)～29日(日)、高知市にございます高知大学朝倉キャンパスで「公共性の回復と人間関係の復活」をテーマとして開催され、盛会のうちに終了しました。開催に際しては早坂三郎理事長を始めとする本学会の先生方、高知県在住の本学会員のみならず、御広告をお寄せいただいた企業・団体の皆様に多大な御協力を賜りました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

今回の大会は佐々木かなこ先生を中心とする語り部部会の企画により、9月27日(金)の前日企画(北川村モネの庭へのエクスカッション)をもって始まりました。北川村は遠隔地にもかかわらず9名の方に御参加いただき、盛会になりました。

9月28日(土)午前中は実行委員会企画として、①川竹大輔会員(高知大学)によるよさこいについての御講話及び学生よさこいサークル粋恋によるよさこいの実演②元吉喜志男氏(元高知県立文学館長)による高知県の文学の紹介及び竹村泰央会員(高知県立希望が丘学園、朗読サークル潮騒)による朗読が行われました。

午後には大会招聘フォーラム「子どもの自殺の背景にある生徒指導と人間関係」第1部として、学校の不適切指導により御身内を亡くされた御遺族の会「安全な生徒指導を考える会」をお招き

し、北海道立高等学校自死事件の御遺族のお話をうかがいました。総会では2023年度の事業報告及び決算報告、2024年度の事業計画(案)及び予算(案)、2024年度以降の役員人事が承認されました。また、杉本太平会員を中心として「人間関係士」資格事業に関する審議もございました。その後、基調講演として鈴木大裕氏(土佐町議員、教育研究者)をお招きし「公共性の回復と人間関係の復活」というタイトルで御講話いただきました。

9月29日(日)午前中は12名の方が口頭発表を行い、藤田毅会員(太平洋学園高等学校)「森尚水の歴史教育実践に関する検討」に研究奨励賞が授与されました。また、大会招聘フォーラム「子どもの自殺の背景にある生徒指導と人間関係」第2部として、北広島市立中学校自死事件の御遺族のお話をうかがいました。更に、自主ラウンドテーブルとして早坂三郎理事長・大槻知史氏(高知大学)・伊藤創平氏(太平洋学園高等学校)による「南海トラフ地震と防災について」が開催されました。その後、2025年度の第33回大会は山崎将文先生を大会長として京都橘大学で開催されることが報告されました。

最後に、第32回大会に御協力いただいたすべてのみなさまに、心からの感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

全国大会メモリー 2024.9

高知大学を舞台に大盛況のうちに幕を閉じた「日本人間関係学会第32回全国大会」。
 基調講演では、鈴木大裕氏の力強いメッセージが参加者の心に響き、多様な企画を通して高知の魅力や社会問題への取り組みが深く掘り下げられました。
 研究発表では、教育、心理、介護など様々な分野の研究者が集まり、活発な議論が展開。
 招聘フォーラムやラウンドテーブルでは、子どもたちの未来や南海トラフ地震など、現代社会が抱える課題についても真剣に議論されました。
 そうした大会の様子をごく一部ですが、写真を用いてコラージュ風にし、ここに思い出として残しておきたいと思います。





「日本人間関係学会第32回全国大会、高知で開催！」



9月28日(土)・29日(日)に、高知大学(朝倉キャンパス)にて「日本人間関係学会第32回全国大会」(大会長:加藤誠之先生)が開催されました!

今回のテーマは「公共性の回復と人間関係の復活」。

少子高齢化やグローバル化など、現代社会が抱える様々な問題に対し、人間関係という視点から解決策を探る、貴重な機会であり、熱気あふれる2日間となりました。

1.今日の危機的状況を打破するために!

「公共性の回復と人間関係の復活」の大会テーマと同じくする基調講演では鈴木大裕氏(教育研究者、土佐町議員)より「今だけ、金だけ、自分だけ」という新自由主義に抗り、公共性を重んじる上での示唆を与えてくれました。



2.高知の魅力に触れる!

川村大輔氏(高知大学理事特別補佐)、芳村百里香氏(高知市よさこい移住応援隊)より高知のよさこい、元吉喜志男氏(元高知県立大学文学館長)、竹村泰央氏(高知県立希望ヶ丘学園)、藤原美穂氏(一絃琴奏者)より文学、そして自由民権運動発祥の地としての歴史など、高知の魅力を再発見する企画も。

3.子どもたちの未来を考える!

日本人間関係学会と共催で2日間2部構成で「安全な生徒指導を考える会」の「子どもの自殺」をテーマにした招聘フォーラムでは、対面のみならずZoomも含めて「指導死」にスポットを当てて専門家や参加者たちが熱心に議論を交わしました。



4.研究発表が盛りだくさん!

3つの分科会に分かれ、教育、保育、福祉、心理など、様々な分野の研究発表が行われ、活発な質疑応答が繰り広げられました。

5.南海トラフ地震と防災を考える！

最終日の最後のプログラムとして、大槻知史氏（高知大学防災推進センター教授）、早坂三郎氏（甲子園短期大学学長）、伊藤創平氏（高知大学防災推進センター客員助教）より高知県が位置する南海トラフ地震帯を踏まえ、防災に関する自主ラウンドテーブルも開催されました。



6.研究賞に森尚水研究 が選出される！

閉会式では、研究賞発表で藤田毅会員（太平洋学園高等学校副教頭）が受賞されました。



なお、参加者からは次のような声がありました。

「人間関係の重要性、人と人のとのつながりを改めて実感しました。」

「高知の歴史に触れ、新しい視点を得ることができました。」

「様々な分野の研究発表を聞き、刺激を受けました。」



今年（2025年）は、京都橘大学（大会長：山崎将文先生）での開催を予定しております。今回の大会で得られた知見を活かし、今後も学会として、より豊かな人間関係と持続可能な社会の実現に向けて貢献してゆくこととなるでしょう。

2024年度 日本人間関係学会エクスカージョン（語り旅）を終えて

佐々木かなこ（語り旅部会）



今年度のエクスカージョン（語り旅）は、高知県東部に位置する北川村の「モネの庭」を訪ねました。

印象派の画家クロード・モネの庭を再現するために、取り組んだ経過と、その庭園の案内を庭師にお願いしました。

庭師の説明によると、1996年から地域を活かした観光と文化の拠点づくりのプロジェクトを立ち上げ、模索を続けたとのこと。地域が誇る太平洋の眺望と豊かな自然を活かし、その中に庭園を造ることにしたとのこと。

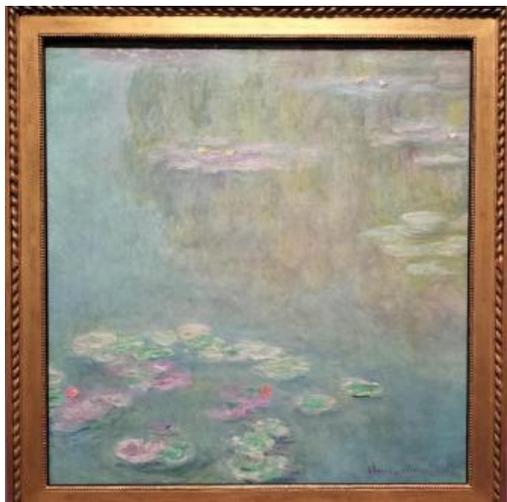
クロード・モネ財団と度重なる交渉を続け、2000年に開園に漕ぎつけたとのこと。日本で唯一の財団公認の庭園であり、その間には、モネ財団からも係が来日し、助言を得る等の親交を深めたとのことでした。庭師が力説していたのは、何の伝手もないところから「熱意でつながった」と話されたことです。

広大な庭園には、モネの特徴とも言える睡蓮が可憐に咲いていました。その「水の庭」は数か所にあり、特に「青い睡蓮」はモネが夢に描いていたもので、自宅では叶えられなかったそうです。しかし、北川村では咲かせることに成功し、ひととき美しい花をつけていました。また、地中海の光と色彩をイメージしたホルディゲラの庭は、南国ムードのあふれる佇まいで、陽光をテーマにしたモネの精神を垣間見ることができました。さらに、色とりどりの花々が咲き誇る「花の庭」は、花を絵の具のパレットに例えるほどにカラフルで目を楽しませてくれました。



庭師は、日々の手入れや、植生、維持の仕方などを丁寧に説明してくださいました。数年前にはフランスに赴き、研修を受けて来られたそうです。モネが絵に表現した光は柔らかく、それが現地で体感できたとのこと。そこが北川村に注ぐ陽の光との違いだと話され、モネの絵には光の質的な表現があると気づかされました。庭師は、モネの絵と、モネの魂をも取り込んで仕事に向き合っていると実感しました。

過疎化が懸念される地域にありながら、「モネの庭」は住民の熱意が実を結んだ素晴らしい空間を創りあげていました。



当日は、好天に恵まれ、高台から眺める太平洋と背にする雄大な山々の深緑、そして足元の赤白桃色の彼岸花を目の当たりにしながら、心あられるひと時となりました。

夕暮れ時には高知市内に戻り、特産のカツオ料理と地酒に舌鼓を打ちながら、会員相互の交流を深めるものとなりました。

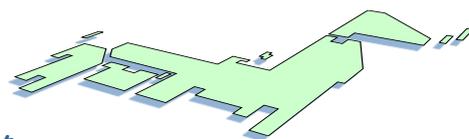
20数年前に、高知県東津野村でも語り旅を行いました。その頃は、清流四万十川ブームで、その際にも村民が10年間に渡り、世界のリゾート地として名高いスイスに赴き、交流を通して豊かさの気づきを得ながら「清流四万十川」づくりに尽力されました。これらの例からも、高知県の方々には志が高く、熱意とおおらかさで豊かな暮らしづくりをしていると改めて感銘を受けました。

(文責 佐々木)



北から、南から

間違いばかりじゃない 正しいことばかりでもない 人生に意味を…



「なぜ」「何」を突き止めるための 人間関係を基盤にした調査研究の重要性

田中康雄(西南学院大学人間科学部教授)

現在、「老人ホームの離職防止に向けた組織マネジメントの仕組みづくり」について、調査研究を行っている。

日本においては、少子高齢化、かつ人口減の社会が加速度的に進行している。婚姻、あるいは子どもをもつことに対し、様々な価値観等があり、一人での暮らしを選択しているケースが増加している。一方、高齢期に介護が必要な状態となった際、日々の生活において、誰かの支えが必要となる。「ピンピンコロリ」という言葉があるように、高齢期に可能な限り、介護が必要必要な状態とならず、人生を全うしたいと考える人は少なくない。

われわれ人間は、不老不死ではない。ある種、この世に生を受けてから、1分1秒、死に向かっている存在といえる。それゆえ、人生の完成期ともいえる高齢期をどう過ごすかは、人間にとって最も重要な視点の一つと言える。

高齢期に介護が必要な状態となり、配偶者や子どもの有無に関わらず、社会全体で支える仕組みが介護保険制度である。介護保険を利用することによって、要介護状態での様々な介護サービスを受けることが可能になる。その介護サービスの一つに、要介護高齢者の生活を24時間365日支える施設とし

ての特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設、以下老人ホーム)がある。その施設数は8千超で、定員は約59万人であり、そこには、自分自身の身体等を用いながら、要介護高齢者の生活を支える介護職が存在する。

老人ホームを利用したい要介護高齢者が多くいる一方、現段階で既に介護職の不足感が生じ、今後さらに深刻化することが予測されている。この不足感の状況は、過疎地域に限らず大都市圏でも、大きな問題となっている。例えば、日本で最も人口の多い東京都23区内でも、介護職の確保ができず、介護サービスの受入を制限している老人ホームのケースが、実際に今そこかしこで起きている。

しかし、様々な職種の中から介護職を選択したにも関わらず、その後、離職してしまう現状がある。中でも、勤続3年未満に離職するケースが問題となっている。日本には約1万7千超あるといわれる仕事の中から、あえて老人ホームの介護職を選択したにも関わらず、「なぜ離職してしまうのか」、その「要因には何があり」、どのような「構造があるのか」、介護保険制度以降、この「なぜ」と「何」を突き詰めることをライフワークとしてきた。そして、どうすれば「少しでも老人ホームの介護職の離職者を一人でも減らすことができるのか」、そのための組織としてのマネジメントの方法を追い求めてきた。

その「なぜ」「何」を突き止めるために、調査は欠かすことができない。それらの調査では、量的調査(アンケート調査)、質的調査(インタビュー調査)を必ず併用している。それは、「なぜ」「何」を明らかにするエビデンス(根拠)には、「数字でわかること」だけでなく、「言葉だからわかること」が存在するからである。そのため、本書のタイトルでもある(北から、南から)のように、北は北海道から、南は沖縄県の老人ホームを対象に、これまで、数千人を超えるアンケート調査、数百人を超えるインタビュー調査を行ってきた。

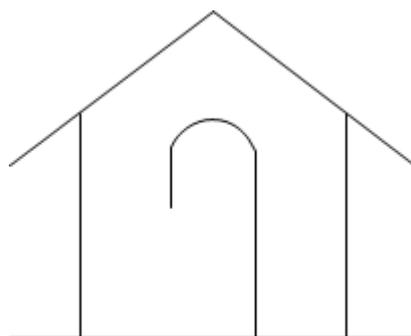
その際、全国の老人ホームを(北から、南から)、直接足を運び、実践現場のリアルを肌で感じることで、考察が深まると感じている。有名な日本映画のセリフではないが、「リアルは常に現場で起きている」。そして、そこには、常に老人ホームの介護職の方々のご協力がある。ご協力がなければ、「なぜ」「何」を、エビデンスをもとに深堀していくことはできない。だからこそ、感謝の気持ちを常に念頭に置き、研究のための研究という側面だけでなく、少しでも「老人ホームの介護職の離職防止につなげたい」という一心で調査研究を継続してきた。

その(北から、南から)の老人ホームの実践現場のリアルでの出会いが更なる出会いを生み、日本全国での人間関係が広がってきた。さらに、日本人間関係学会の様々な活動を通して、それらの人間関係の広がりが、より深みを増してきたと感じている。

今後高齢化率が40%に近づくことが予測される中、「老人ホームにおける介護職の離職防止に向けた組織マネジメント」は日本の喫緊の課題といえる。組織とは「人と人」のつながりであり、組織マネジメントとは「人と人をつながりやすくする」ことである。高齢化の世界最先端を走る日本において、老人ホームの組織づくりがあらためて今問われ、諸外国からその動向に注目が集まっている。

夢中になって戦ったのでしょ。翌日は全身筋肉痛という悲劇も待ち受けていました。

それでも非常に楽しかったという思いが強く残っているのは、やはり人と人とふれあうことの楽しさは何にも勝るのだと思います。



伊勢への家族旅行

和香絢子(WA-Smile代表/講師)

先日、三重県伊勢市に家族で旅行へ行きました。

初日は伊勢神宮の外宮、内宮と参拝して旅の安全を祈願し、2日目に伊勢忍者キングダムというところに行ってきました。

この伊勢忍者キングダム、小学生の息子の強い希望により行ったのですが思った以上に楽しかったのでその時のことを綴りたいと思います。

伊勢神宮はコロナ禍明けということもあり多くの人で賑わっていましたが、こちらは混雑もなくスムーズに入場。

入ってみるとまるでタイムスリップをして忍者の世界に入り込んだかのような村の景色に一気にテンションが上がります。

せっかくなので存分に忍者気分を味わおうと場内にある大浴場(温泉施設)のフロントにて忍者衣装をレンタルしました。

忍者の服装になり、身も心もすっかり忍者になったところでリアルRPGゲームの受付へ。

このリアルRPGというのが大変面白く、村中にいるスタッフ(村人)さんに話しかけて情報を入手し、ストーリーを進めていくというゲーム。

実際にボスと戦ったり、賭場でお金を調達したり、吹き矢や手裏剣投げなどのミッションも出ます。

コロナ禍ではあり得なかった、見ず知らずの方々に話しかけて情報を得るというシステム。

ボスを倒すのも、他のお客様に声を掛けて「一緒に協力しませんか？」と仲間を集めて勝負に挑みます。まさにコミュニケーション能力が必須のゲームでした。

スタッフ(村人)さんや他のお客様に自ら話しかけたり、時にはレベルを上げるために勝負を挑んだりと多くの方々とコミュニケーションを取るという経験は小学校生活をほとんどコロナ禍で過ごしている息子にははととも新鮮だったようで大興奮でした。

こんなことは非常に久しぶりでしたので、息子も夫も私も大変楽しい時間を過ごせました。

ただ、ボス戦が強かった・・・！他のお客様たちと何度もチャレンジしてみたものの、全く倒せず途中で断念して帰ってきたのが悔やまれます。ボス達は子供たちにも容赦なしです。

一切の村度なしで毎回一瞬で打ちのめされました。

おかげさまで一緒に戦った方々とも強い仲間意識が生まれました。

またリベンジをしに必ず来ようと家族で誓ったあたりは忍者キングダムの思惑通りなのかもしれません。

夢中になって戦ったのでしょう。翌日は全身筋肉痛という悲劇も待ち受けていました。

それでも非常に楽しかったという思いが強く残っているのは、やはり人と人とふれあうことの楽しさは何にも勝るのだと思います。



「人間関係士」資格認定が再スタートします

日本人間関係学会会員の皆様へ、人間関係士資格委員会より2025年度より再スタートする「人間関係士」資格の認定に向けての準備状況と、本事業についての今後の見通しについてお知らせいたします。

1. 資格認定の事業再開に向けての承認手続き

本事業の再開に向けて、昨年度より理事会にて組織運営や実施規定の見直しなどをすすめ、人間関係士資格委員会を理事会で再構成して資格事務局も立ち上げることができました。2024年9月28日（土）の日本人間関係学会第32回大会（高知大学）において開催されました学会総会において、2025年度の資格事業再開に向けての組織運営や実施規定の案が承認されたところです。

2. 「人間関係士」資格認定のスケジュールと準備状況

現在、人間関係士資格委員会で事業再開に向けて以下の通り、準備を進めています。

(1) 人間関係士ガイドブックの作成（2025年6月末日途に発行予定）

人間関係士資格取得者に向けて、人間関係士の役割と意義、学修すべき基礎的な知識や援助技術、倫理、資格取得方法などの解説といった内容になります。資格取得のための必修テキストになります。

(2) 人間関係士申請マニュアルの作成・公開（新たに申請マニュアル作成・4月以降HP公開予定）

(3) 特別措置による上級資格の認定（総会の承認済み、2025年3月末までに実施）

(4) 資格証のデザイン決定・認定事業の整備（2025年4月中に完了予定）

このように、鋭意、資格事業再開に向けて準備を進めております。

3. 今後の見通し

2025年4月以降、本事業は再スタートします。今後の資格認定実施は以下のように予定しています。

(1) 現資格取得者（中級以上）が主催する地区会・研修会等の参加者の初級認定が実施できるようにします。（詳細は4月以降に更新予定の資格申請マニュアル初級を参照ください）

(2) 現会員のための中級・上級の資格認定につきましては、来年度中に資格認定のための講座（必修講座・基礎理論・応用実践講座）を実施して、資格申請が可能になるようにします。（次回大会に向けて講座企画を進めていく予定です）

(3) 「人間関係士養成協力機関」（大学・短大・専門学校等や賛助会員としての民間団体・民間教育機関等）の初級資格認定が可能になります。（2025年度中に申請受理されたものはできるだけ2025年度内に初級資格認定を進めます）

会員の皆様におかれましては、「人間関係士」の資格認定が学会として協議されてから、永い間お待たせすることになりましたが、本事業が学会と地域・社会を繋ぎあうツールになり、「人間関係」を研究者のみならず地域の人々や企業関係者などとも共に学び研鑽する場として設立された、学会の本来の意義のもとにさらに発展していく一助となることを資格委員会としても願っております。またぜひ、会員の皆様にも本資格取得をご検討いただき、会員の皆様の活躍の場を広げていくことにも役立てていただければ幸いです。

（人間関係士資格委員会）

Q&Aでよくわかる

人間関係士資格認定の再始動

日本人間関係学会会員 A さん: 人間関係士の資格認定が再スタートするって本当ですか？

人間関係士資格委員会: はい、本当です。2025年度から再スタートすることになりました。

A さん: ずっと待っていました！具体的に、どんなスケジュールで進んでいくんですか？

資格委員会: まず、昨年度から理事会で組織運営や実施規定の見直しを進めてきました。人間関係士資格委員会も再構成し、資格事務局も立ち上げることができました。

A さん: それは素晴らしいですね！

資格委員会: そして、2024年9月28日の日本人間関係学会第32回大会(高知大学)の総会で、2025年度の資格事業再開に向けての組織運営や実施規定の案が承認されたんです。

A さん: 順調に進んでいるんですね。

資格委員会: 現在、人間関係士資格委員会で、以下の準備を進めています。

1. 人間関係士ガイドブックの作成: 2025年6月末を目途に発行予定です。人間関係士の役割や意義、学ぶべき知識や技術、倫理、資格取得方法などを解説する、資格取得のための必修テキストになります。
2. 人間関係士申請マニュアルの作成・公開: 新たに申請マニュアルを作成し、4月以降にホームページで公開予定です。
3. 特別措置による上級資格の認定: 総会で承認済みで、2025年3月末までに実施します。
4. 資格証のデザイン決定・認定事業の整備: 2025年4月中に完了予定です。

A さん: 色々と準備が進んでいるんですね。これからはどうなるのですか？

資格委員会: はい。2025年4月以降、いよいよ事業が再スタートします。具体的には、

1. 現資格取得者(中級以上)が主催する地区会・研修会等の参加者の初級認定が実施できるようにします。

(詳細は4月以降に更新予定の資格申請マニュアル初級を参照ください)

2. 現会員のための中級・上級の資格認定につきましては、来年度中に資格認定のための講座(必修講座・基礎理論・応用実践講座)を実施して、資格申請が可能になるようにします。

(次回大会に向けて講座企画を進めていく予定です)

3. 「人間関係士養成協力機関」(大学・短大・専門学校等や賛助会員としての民間団体・民間教育機関等)の初級資格認定が可能になります。

(2025年度中に申請受理されたものはできるだけ2025年度内に初級資格認定を進めます)

A さん: 資格取得に向けて、具体的な道筋が見えてきました。

資格委員会: 会員の皆様には、長らくお待たせしましたが、本事業が学会と地域・社会を繋ぐツールとなり、「人間関係」を研究者のみならず、地域の人々や企業関係者などとも共に学び研鑽する場として、学会の本来の意義のもとにさらに発展していく一助となることを願っています。

A さん: 期待しています！

資格委員会: ぜひ、会員の皆様にも本資格取得をご検討いただき、活躍の場を広げていただければ幸いです。

A さん: ありがとうございます！

事務局だより

【会員動向】（2024年9月1日～2025年2月28日）

2025年2月28日現在

会員134名（正会員：108名 一般会員：10名 準会員：16名 賛助会員：0）

〈入会者〉

正会員：3名 ・白石真澄・田中ミサ・荒木由美子

一般会員：1名 ・村上幸一

（敬称略）

災害級の降雪に見舞われた冬も終わり、三寒四温の季節となりました。桜の見ごろが今から楽しみです。桜の見ごろを迎える頃には、ご所属等のご移動もあるかと存じます。ご住所の変更がございましたら、学会事務局までご連絡をお願い致します。

今年度から、事務局は鈴木満が引き継いでおりますが、理事長の早坂先生、副理事長の三好先生、森先生はじめ、多くの先生方にお支えいただいております。引き続き、みなさまのご高配をたまわりたいと存じます。何卒、よろしくお願い致します。



日本人間関係学会第33回全国大会 予告

2025年9月13・14日（土・日）開催予定

12日（金）にはエクスカーションを予定

会場 京都橘大学 大会長 山崎将文

※詳細が決まり次第、公式HP等で公表いたします。

学会ニュースは年2回発行（2月・8月）

「北から、南から」のコーナーでは、会員からの投稿をお待ちしております。

お寄せいただきたいのは、A4用紙・半枚から1枚。多少オーバーしても大丈夫。

日々の生活で感じたことや、思い浮かんだこと、作品などお便りに載せてください。

1月末までの投稿分は2月発行のニュースに掲載されます

7月末までの投稿分は8月発行のニュースに掲載されます

送付先 広報委員会（谷川）まで tanikawa@kusw.ac.jp

（編集後記）

今号の最もホットなニュースは「人間関係士認定資格の再始動」ではないでしょうか。記事を拝見すると、これまで着々と準備が進められてきていることがよく分かります。広報委員会では、せっかくの機会ですので、人間関係士資格委員会よりご提供いただいた原稿を掲載するとともに、それが皆様により身近に感じていただけるよう、「Q&Aでよくわかる」と題するコーナーも交えてみました。資格取得に関心のある方必見！（谷川）